

パブリカの栽培技術の確立第5報

誌名	九州農業研究
ISSN	04511581
著者名	深田,直彦 黒木,利美 藤田,和也
発行元	九州農業試験研究機関協議会
巻/号	67号
掲載ページ	p. 151-151
発行年月	2005年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



パプリカの栽培技術の確立

第5報 主枝の誘引法の違いが生育および収量に及ぼす影響

深田直彦・黒木利美・藤田和也 (宮崎県総合農業試験場)

Naohiko Fukada, Toshimi Kurogi and Kazuya Fujita :
Establishment of cultivation technique on paprika
5. Training method of primary scaffold branch

前報までに促成パプリカ栽培における栽植密度、側枝の着果数制御、着果開始節位、栽培初期の着果数制限が生育および収量に及ぼす影響について報告した。本報では主枝の誘引法の違いが生育および収量に及ぼす影響を述べる。

1. 材料および方法

供試品種は「スピリット」を用いた。試験区は、主枝2本仕立て栽培で、主枝の誘引方法(摘心時期)を変えることで設けた。すなわち、主枝を畦の方向に対して直角に振り分けてU字形に誘引し、誘引線の上端部に到達した2月上旬に主枝を摘心する「垂直誘引区」、12月までは垂直誘引区と同様に誘引を行い、1月以降は主枝を畦の方向に振り分けて斜めに倒しながら誘引し、栽培終了の約2か月前にあたる5月上旬に主枝を摘心する「斜め誘引区」、そして斜め誘引区と同様に誘引し、栽培終了まで主枝を摘心しない「無摘心区」の3水準を設けた。床面から誘引線の上端までの高さは160cmとし、畦上の誘引線先端の列幅は95cmとした。

試験はS社式自動給液制御によるロックウール耕で行った。給液量は排液率が20~40%になるように、また、培養液濃度は排液ECが2.0~2.6になるように自動制御した。播種は2002年8月16日に行い、10cm×10cm×7.5cmのロックウールポットに鉢上げして9月20日に定植した。畦幅は180cm、株間は20cm、栽植密度はa当たり278株植えとした。側枝は3、4節で摘心した。収穫の終えた側枝や着果のない側枝は主枝果の収穫を目安に順次1節で切り返した。温度管理は、日中最高28℃で換気し、夜間最低17~19℃で管理した。また、培地加温は20℃設定とした。収穫は2002年11月26日から2003年6月30日まで行った。

2. 結果および考察

(生育)栽培終了時の主枝状態をみると、摘心した区の比較では斜め誘引区のほうが、また、摘心の有無の比較では無摘心区のほうが、主枝長が長く、節数が多かった(第1表)。一方、斜め誘引区と無摘心区は、主枝の伸長にばらつきが多かった(第1図)。

(収量)可販果収量およびA品収量は、斜め誘引区と無摘心区が多く、垂直誘引区に比べて8~10%増収した(第2表)。時期別収量をみると、5月以降の斜め誘引区と無摘心区の収量が垂直誘引区よりも多かった(第2図)。また、斜め誘引区と無摘心区はほぼ同等の収量であったが、無摘心区は栽培終了まで誘引する労力を要した。

以上のことから、パプリカの促成栽培における主枝の誘引法は、主枝が誘引線の上端部付近に到達後、主枝2本をそれぞれ畦の方向に振り分けて、順次主枝の伸長にあわせて斜めに倒しながら長期に渡って誘引するのがよ

く、栽培終了予定の約2か月前に主枝を摘心すればよいと考えられた。また、本報では栽培終了まで主枝を摘心せずに、長期に渡り誘引することが可能であったことから、本報よりも栽培期間を1~2か月程度、前進あるいは延長することも十分可能であり、さらなる増収が見込まれる。

第1表 栽培終了時の主枝の状態^{z)}

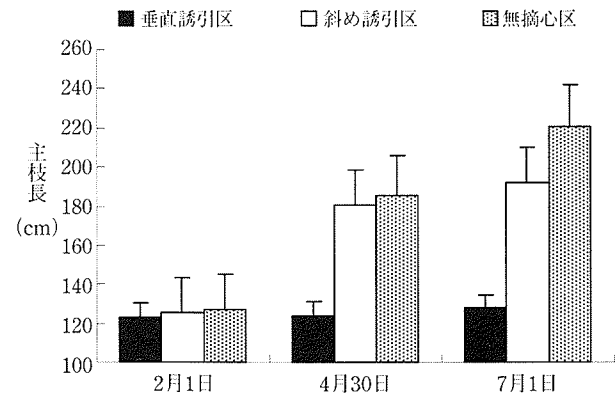
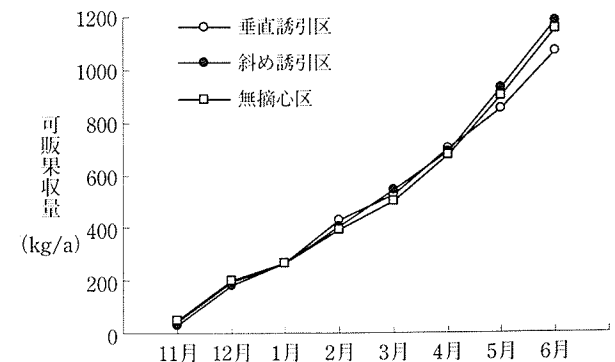
区名	主幹長 (cm)	主枝の状態			
		長さ (cm)	節数	節間長 (cm)	茎径 (mm)
垂直誘引区	30	128±7 a	21±2 a	6	10±0.8 a
斜め誘引区	31	192±21 b	34±2 b	6	10±0.9 a
無摘心区	30	220±22 c	39±4 c	6	10±0.8 a

注) z): 7月1日に調査。数値は平均値±SD (n=30)。同一項目の同じアルファベット間にはフィッシャーのLSDにより5%未満で有意差なし。茎径は主枝の5~6節の中間を測定。

第2表 収量

区名	総収量		可販果収量 ^{z)}			
	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	果数 (個/a)	重量 (kg/a)	重量比 (重量%)	1果重 (g)
垂直誘引区	8,700	1,261	7,150	1,080	100	86
斜め誘引区	9,520	1,360	7,990	1,191	110	88
無摘心区	8,930	1,311	7,630	1,163	108	89

注) z): A・B品収量。

第1図 主枝長の推移
注) 平均値±SD (n=30)

第2図 可販果収量の推移 (累計)